２０２５年 美瑛富士・携帯トイレへの取り組み１１年目の活動報告
～ 携帯トイレ環境で「選ばれる山に!」～

山のトイレを考える会HP

美瑛富士トイレ管理連絡会事務局
山のトイレを考える会　磯部吉克@山歩人

１．はじめに…携帯トイレブース設置から１２年目へ（固定式８年目）

トイレ道だった場所に高山植物が咲くまでになった…

美瑛富士避難小屋にはトイレが設置されていないため、かつては周辺にティッシュや排泄物💩が散乱し、放射状にいわゆる「トイレ道」が形成され、裸地化が進行していた。こうした状況を改善するため、2015 年より携帯トイレの利用促進策として、⛺テント式の携帯トイレブースを設置してきた。しかし登山者からは、より安定した“固定式携帯トイレブース”を望む声が多かった。

その要望を受け、2019 年 8 月 27 日、環境省により“固定式携帯トイレブース”が設置され、供用が開始された。また、固定ブースの設置に先立ち、同年 4 月 25 日には北海道地方環境事務所・美瑛町・美瑛富士トイレ管理連絡会の三者により、「美瑛富士携帯トイレブースの維持管理に関する協定書」が📋締結された。協定では、環境省が固定ブースの改築・改修等の大規模修繕、美瑛町が軽微な修繕・冬囲い・回収ボックスの管理、そして美瑛富士トイレ管理連絡会がブースの点検・清掃および周辺清掃を担うことが定められている。

そして 11 年目となる 2025 年も、「清潔なブース」「汚物のない野営指定地」「きれいな避難小屋」を目標に点検パトロールを実施した。毎年訪れる中で、かつて「トイレ道」だった場所の植生が少しずつ回復していることを確認でき、大きな喜びとなっている。

なお、今年の開催日は☔🌧悪天候続きであったが、そのような条件下でも作業にあたってくださった関係団体の皆様に深く感謝申し上げたい🙇。

テント式携帯トイレブース
（2015 年～2019 年）

固定式携帯トイレブース
（2019 年 9 月～）

２．携帯トイレブース点検パトロール等の実施状況

今シーズンも美瑛富士トイレ管理連絡会により、2025 年 6 月 27 日～10 月 5 日までの約 4 か月の間に、固定ブースの冬囲い外しと冬囲いを兼ねた 2 回を含め、計 9 回の点検パトロール・維持管理活動を計画した。荒天のため 1 回は中止となったものの、計 8 回の活動を実施することができ、延べ 70 名が参加した😊。

冬囲い外しについては、当初より早期の実施を目指していたが、☔☁⚡悪天候により 2 度の延期を余儀なくされた😓。

■２０２５年 携帯トイレブース点検パトロール等の実施状況

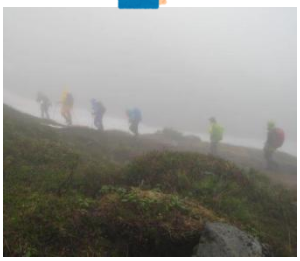
① 6 月 27 日(金) … 携帯トイレブースの冬囲い外し(供用開始)：７名
（美瑛町・環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会）
② 7 月 6 日(日) … 大雪山国立公園パークボランティア連絡会：７名
③ 7 月 20 日(日) … 札幌山岳連盟･札幌山岳倶楽部：９名 ※☔悪天候ため中止
④ 7 月 27 日(日)～28 日(月) … 日本山岳会北海道支部：５名
⑤ 8 月 10 日(日) … 北海道山岳･スポーツクライミング連盟･自然保護委員会：８名
⑥ 8 月 30 日(土)～31 日(日) … 道央地区勤労者山岳連盟：１６名
⑦ 9 月 7 日(日) … 道北地区勤労者山岳連盟：４名
⑧ 9 月 22 日(月) … 北海道山岳ガイド協会：２名
⑨ 10 月 5 日(日) … 携帯トイレブースの冬囲い(供用終了)：１２名
（美瑛町・環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会）

延べ９回実施／７０名参加

■２０２５年 点検パトロール等実施報告（主な概要） ※詳細は山のトイレを考える会のＨＰ参照

📝６月２７日

💧今年もトイレブースは破損もなく、塗装状態も良好で、完璧な状態で残っていた。悪天候かつ平日であったものの集まれるメンバーのみで何とか冬囲い外しを実施した。一方で、「避難小屋の小窓が破損」「茂みの中にティッシュやゴミが散乱」「避難小屋内に、ピーボトルに入れられた尿やテント用ポールが放置」されていた。☔❄寒かったが、登山道沿いの🌸花々が美しい…



📝７月６日

⛺テント場付近は💩汚物に石がかぶせられ目立たなくされている箇所があったが、ティッシュ類の放置は見られなかった。ブースがあるにもかかわらず使用されない背景には「持参していない！」「我慢できない！」「使用が面倒！」「自然分解されると誤解している！」などの理由が考えられる。引き続き具体的な対策を検討していきたい。

📝７月２０日

☔☁生憎の空模様、天然庭園で登頂を断念し、活動は中止。ただし、白金温泉公衆トイレに設置している携帯トイレ回収ボックスの点検は実施👀。点検の結果、残念ながら🥫空き缶が捨てられていた(４缶)😠…🔒施錠はされていた。

📝７月２７～２８日

☔☁両日とも生憎の空模様。ブースは本体・内部ともに破損や汚れは確認されなかった。小屋周辺では使用済みティッシュを回収。避難小屋は内部天井の合板が一部剥がれて💧雨漏りの影響が懸念される。登山道は泥濘がひどく🌿笹やハイマツが被さって歩きづらい状況だった。早急な登山道整備✂の必要性が強く感じられた。

📝８月１０日

💦🌧生憎の空模様。ブース内のメッシュ床下にはティッシュや凝固剤袋の欠片があったが、周辺はきれいに使用されていた。利用者への聞き取りでは、多くの登山者が携帯トイレを持参しブースを利用している一方、「不携帯で穴を掘って用を足している」との声も…その場で携帯トイレの携行や利用をお願いするとともに、活動内容も説明。避難小屋内に残されていたガス缶や下着、片方のグローブを回収。白金温泉公衆トイレの回収ボックスにはゴミはなかったが、張り紙の薄れと汚れが目立っていた。

📝８月３０～３１日

☔またしても両日とも生憎の空模様(低温注意報)。ブースや小屋周辺はきれいだった。ブース外に携帯トイレのプラ袋が捨ててあった。ブース内に落ちていたティッシュ回収。白金温泉公衆トイレの回収ボックスに🥫空き缶が捨てられていた（４缶）…🔒施錠はされていた。

📝９月７日

☔生憎の空模様（雨と強風）。小屋・トイレブース周辺は殆どゴミや汚れが見られなかった。避難小屋の天井コンパネが一部剥離していた。小屋内の掃き掃除を実施。白金観光センター回収ボックス内に🧯空き缶６個あり回収済み。たびたび空き缶が投棄されている状況である。

📝９月２２日

☔☁生憎の空模様…ブース本体に破損や汚損はなかったが、緩んでいた固定ロープを締め直した。また、ブース内に置かれていた手ぬぐいを回収し、石で隠されていた💩汚物やティッシュも回収した。

冬囲い

📝１０月５日
☀今年も多くの協力者により手際よくブースの冬囲いを終えることができた。登山道は整備されていてとても歩きやすくなっていた(感謝)。当日は久々に天候に恵まれ作業が捗った。⛺テント場で、ティッシュやゴミを回収。ブース内はきれいな状態であった。今年も多くの方にキレイに利用いただきました😊…ありがとうございます❗

新天板の運搬

ゴミ回収

通気口防ぐ作業

保護天板取付作業

雨漏り防止と
ブルーシート被せ作業

ブースの防水性・耐久性の
向上と保護強化

ベルトや PP バンド固定

小屋前の解散式…お疲れ様！

便座もお疲れ様！

３．携帯トイレブースの利用数は過去最高の４８０回

携帯トイレブースの利用実態については、2022 年から利用数（カウンター値）の記録を続けており、2025 年もほぼ正確な値（利用数 480 回※1）を得ることができた。前年の推計値と比較すると微増傾向※2 ではあるものの、利用者数は毎年確実に伸びていることが確認できる。

携帯トイレブース内のカウンター

携帯トイレの利用は、登山者一人ひとりが高山環境を守るためにできる最も効果的なアクションのひとつである。利用者が着実に増加していることは、携帯トイレの必要性が理解され、山を守ろうとする意識

が広がっている証でもあり、大変心強く感じている。今後も、引き続き普及啓発や環境保全活動に力を入れていきたい。

■２０２５年の携帯トイレブースカウンター値※1

月/日	6/27	7/6	7/20	7/28	8/10	8/30	9/7	9/22	10/5
数 値	4	61	中止	280	329	395	412	438	480

■２０１６年～２０２５年（１０年間）の年度別携帯トイレブースの利用数※2

年	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
利用数	179	180	196	218	203	201	*142 以上	*277 以上	365	480

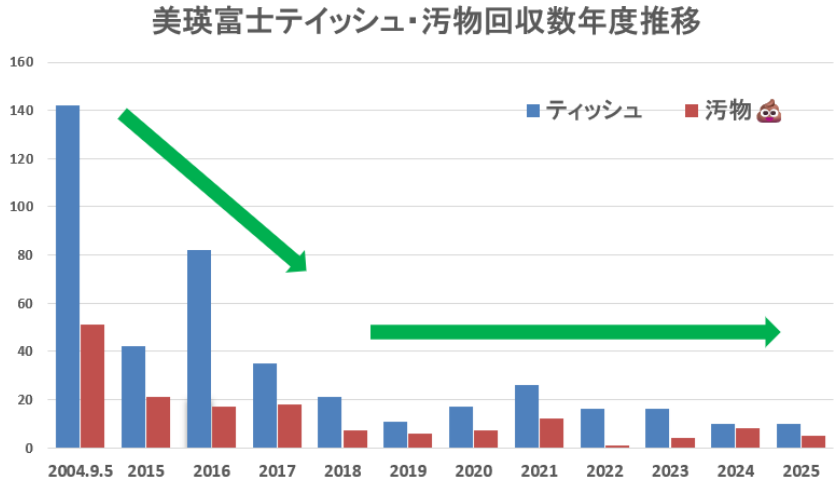
*2022 年、2023 年は誤作動等による推定数値

４．ティッシュ、汚物等の回収状況

2015 年から継続してきた避難小屋周辺の点検パトロールは、2025 年で 11 年目を迎えた。今シーズンにおける小屋周辺での回収状況は、🧻ティッシュ類 10 個、💩汚物類 5 個、🛍️ゴミ類 20 個であった。記録の残る 2004 年頃と比較すると大幅に減少しているものの、統計には反映されていないゴミの回収量は依然として増加傾向にある（下記図参照：年度別推移）。

マナーを守れない登山者が一定割合存在することも事実である。しかし、その割合を減らし、可能な限りゼロに近づけること、そして携帯トイレの認識率・所持率を 100%に近づけることが、私たちの目標である。今後も引き続き、点検パトロールの継続と各種啓発活動を地道に進めていきたい。

また、登山者が安心して携帯トイレを使用できる環境の整備や、美瑛富士避難小屋を利用する際には「携帯トイレを必ず所持する❗」ことを広く周知する必要がある。特に SNS 📱を活用した発信は今後さらに重要性が増すと考えており、継続的かつ効果的な広報に努めていきたい。



５．おわりに…次年度の課題解決等に向けて

（１）冬囲い方法と冬囲い外しの時期について

美瑛富士避難小屋の固定式携帯トイレブース設置から 8 年が経過した。ブースは約 7 か月間⛄雪に埋もれ、冬の強風にもさらされるため、毎年 10 月上旬に冬囲いを施しているが、過去には強風で冬囲いが飛ばされ、翌春に無残な姿で見つかったこともあった。長期的に快適に利用するためには、厳しい気象条件に耐える保護体制が欠かせない。これまでの試行錯誤を踏まえ、環境省が 2022 年からマニュアルを整備し、現在はベテラン会員や地元役場や地元山岳会の協力で安定した作業が行われている。今後も確実な保護が必要である。上からすっぽり被せるタイプのカバー(テント)の導入を含め、どのような方法が適切か、予算面も踏まえて環境省と検討していきたい。近年は降雪量の減少や雪融けの早期化により、冬囲い外しを早めて供用開始を前倒しすべきとの意見もあるが、地元の行事や関係者の業務調整もあり、必ずしも簡単ではない。今後は関係機関と協議しながら、実施時期について慎重に検討していきたい。

なお、ブース閉鎖期間中も、登山者には携帯トイレの使用とゴミの持ち帰りに引き続き協力をお願いしたい。

（２）携帯トイレ回収ボックスは、ゴミ箱ではありません！

空き缶など不適切な投棄

白金温泉公衆トイレに設置されている回収ボックスは「ゴミ箱ではない！」。観光客による不法投棄を防ぐため、ダイヤルキーで施錠されており、鍵番号は、**５３０（ゴミゼロ）**としている。番号は、トイレマップや登山口ゲート、入林届箱、避難小屋内、携帯トイレブース内などで周知し、外国語表記にも対応している。それでも空き缶など不適切な投棄は依然として発生している。また、今年は🌀暴風で白銀温泉や十勝岳温泉の回収ボックスが飛ばされ、地元自治体等が固定措置を行った。回収ボックスの利用は登山者の間で徐々に定着しつつあるが、あくまで「携帯トイレ専用」であり、🗑ゴミ箱ではないことを改めて徹底していく必要がある。

固定された回収ボックス

今後も、下山後は必ず携帯トイレを専用の回収ボックスへ入れて、ゴミを捨てないよう、ご協力をお願いしたい❗

（３）携帯トイレ環境で「選ばれる山に!」

新しい天板を運ぶ環境省職員

最近は加齢や通い慣れたこともあり、遠方からの作業参加に限界を感じるようになってきた。北海道でも本州同様、トイレ環境やテン場、登山道が整わない山は「選ばれない山」になりつつあり、携帯トイレの整備は「選ばれる山」への重要な取り組みと考えている。余力がある限り、ブースの維持管理や全道での携帯トイレ普及に関わっていきたい😊。

近年の物価高騰などもあり、遠方からの継続的な支援が難しくなると考えている。最終的には地域での引き継ぎが望ましいが容易ではない。安定した維持管理には地域主体の恒常的な体制も不可欠である。具体的には、地元自治体からの依頼や登山道整備のようなボランティアを募る形が必要である。

望岳台の回収ボックス

私自身、会に入る前は💩を沢に流してしまうなど恥ずかしい行為もあったが、運営委員として活動する中で携帯トイレやバイオトイレについて学んできた。今では⛺テント内や人のいない山頂⛰で積極的に携帯トイレを使用しており、その快適さ！防臭力！使いやすさ！に驚いている。使用後は回収ボックスへ！満杯になっていると嬉しくなるほどだ😅。

大雪山では官民一体となり、環境保全のため携帯トイレの携行・利用を呼びかけている。当会のHP には回収ボックスの設置場所や取扱店の情報も掲載しているので、関心のある方はご覧ください❗

携帯トイレブースの設置（テント式・固定式）から 11 年目を迎えた。これまで支えていただいた関係機関の皆様に深く感謝するとともに、今後も変わらぬご協力をお願いしたい。また、こうした取り組みが、各団体が当番制で山を守り続ける一つのモデルとして広がっていくことを心から願っている。

（以 上）

大雪山国立公園連絡協議会の
携帯トイレの使い方📱動画

🚻 美瑛富士トイレ管理連絡会の構成団体
北海道山岳･スポーツクライミング連盟、札幌山岳連盟
北海道勤労者山岳連盟、北海道道央地区勤労者山岳連盟
北海道道北地区勤労者山岳連盟、日本山岳会北海道支部
北海道山岳ガイド協会、大雪山国立公園パークボランティア連絡会
山のトイレを考える会

✿「携帯トイレを使おう！」「北海道の美しい自然をいつまでも！」✿